



# わが校の取り組み・私の工夫

第7回

## 「学校内での情報・指導内容の共有」

このコーナーでは、進路指導・学習指導などさまざまなテーマで高校の取り組みや先生方の工夫を紹介する。今回は「学校内での情報・指導内容の共有」がテーマである。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により広がったオンライン授業を行うにあたっては、さまざまな課題がある。その1つが、在宅勤務においてどのようにICTを活用しながら、教員同士、教員と生徒の情報のやりとりをするかであった。

高校の先生方のアンケートを見ると、「ICTに関する校内研修会開催」「Googleのチャット機能を利用した会議」「在宅勤務でもGoogle Meetを使った朝の打ち合わせで情報共有」などの声が寄せられた。

そこで今回は、ICTを活用した教員同士、教員と生徒の情報の共有について、奈良県立法隆寺国際高校に話をうかがった。ICTを活用した情報の共有がうまくいった背景には、日頃の人間関係があった。

### 奈良県立法隆寺国際高等学校

## 奈良県教育委員会が準備したクラウドプラットフォームを活用し在宅教育中の教員同士、教員と生徒の情報を共有

奈良県立法隆寺国際高等学校では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う休業等の措置にともない、G Suite for Education を用いるなどして校内の情報共有を図り、授業にも活用した。同校の休業期間中の取り組みと情報共有について、3学年で国語を担当している水野隆司先生に話をうかがった。



水野隆司 先生

### 在宅教育開始の前に 校内でClassroomに関する 研修を実施

奈良県立法隆寺国際高等学校は、斑鳩高等学校と片桐高等学校が統合・再編して2005年に開校した、普通科、歴史文化科、総合英語科の3学科を設置する高校である。周囲には聖徳太子ゆかりの法隆寺をはじめとする歴史的寺院が点在し、のどかな田園風景も残っている。

奈良県教育委員会の新型コロナウイルス感染症流行に伴う方針によ

り、同校でも3月2日から臨時休業措置がとられた。もともと2月と3月は、特色選抜・一般選抜（入試）を行うため、卒業する3年生だけでなく、1・2年生の授業時数も限られているうえ、休業がこれほど長引くとは思わなかったこともあり、楽観的に構えていたという。しかし春休みが終わっても新型コロナウイルスの流行は収束せず、奈良県教育委員会の方針として、県立学校では、4月13日から在宅教育<sup>(注)</sup>を行う方針が決定されたことから、同校でもこれに向けての準備を開始した。

在宅教育開始の前に、奈良県教育委員会では、GoogleによるG Suite for Educationを導入して県内の全ての公立学校の全教職員・全生徒にアカウント（メールアドレス）を発行し、授業や情報伝達のために活用できるようにした。

在宅教育開始に合わせて、奈良県立教育研究所は、県立高校や特別支援学校の高等部の教員を主な対象として研修を行った。在宅教育を実感できるよう、学校と自宅をつないだ

(注)各学校が編成した教育課程を踏まえて、「生徒等が在宅を基本として、必要な支援を受けながら学習に取り組み、生徒自らが学習の状況を評価し、学習目標の達成を目指すための教育」（＝在宅教育）を実施する。

映像が配信された。

水野隆司先生は臨時休業措置に伴い、在宅教育が行われるまで、ICTを使った教育は行ったことはなかったそうで、奈良県立教育研究所の研修を受けて、どのようなことができるかを実感したという。

奈良県立教育研究所の研修のほか、同校内でもG Suite for Educationの運用開始前に、G Suite for Educationの機能の1つであるClassroomの使い方についての研修を行った。なお、Classroomとは、担任などが「Classroom」を作成し、そのClassroomに生徒などメンバーを招待して、メンバー相互に書類の配信、伝達事項、フィードバックの投稿などを行うことができるサービスのことである。

これらの研修を経た上で、同校では、Classroomの活用とYouTubeの限定公開による動画配信、さらに生徒一人ひとりに対して、履修する科目の課題プリントをゆうパックで送付し、在宅教育を開始した。また、在宅教育が開始された4月は、学習だけでなく、各種申請書類などの配布も必要だったため、生徒に応じて必要な書類もゆうパックに同封した。

在宅教育では、動画は、生徒の集中力が持続する時間を勘案して、どの科目も10分程度で作成することとし、動画視聴後にプリント等の課題に取り組みせることにした。「例えば、3年生の国語の『現代文B』の場合、最初に取り上げた作品はプリントのみ、2番目に取り上げた作品はプリントと動画を併用しました。3番目の作品も動画とプリントを作成しましたが、この頃には登校が再開されたため、通常の授業を行った上で、動画とプリントも活用しました」(水野先生)

### ◇ クラウド上に ◇ クラス、教科、分掌と ◇ 多様なClassroomを ◇ 設定して情報を伝達

臨時休業中は、生徒だけでなく、4月27日からは教職員も在宅での勤務が実施されることになり、教員間の課題や授業の内容に関するやり取りは、Classroomも活用して行うこととなった。

そのため同校では、目的ごとに複数のClassroomを設定した。すなわち、①担任が生徒やそのクラスの生徒が履修する科目の教員を招待して、授業動画アップの通知などの情報を共有する「クラスのClassroom」、②「学校の教員全体のClassroom」、③「各教科の教員のClassroom」、④休業期間中連絡を取り合う必要のある「分掌のClassroom」などである。生徒への学習指導に当たっては、各クラスの担任から、それぞれのクラスの「Classroom」に招待される形で参加した。

また、在宅教育にあたっては、平常時の教科のクラス担当と、在宅教育中の担当を一部変更することにした。さらに、Classroomを活用したやりとりなどがあるとはいえ、平常時と比べて情報の共有化や指導内容の共有化は難しいと考えられたため、授業内容と定期考査などの評価の一貫性を勘案し、各科目のチーフに当たる教員が課題プリントと授業動画を作成することにした。

3年生の国語を例に説明すると、平常時には水野先生を含む7人の教員で、3年生8クラスの「現代文A」「現代文B」「古典A」「古典B」の授業を分担している。水野先生の場合、平常時の授業では3年生の「現代文B」の4・5・6・7・8組の授業と、「古典B」の1組を担当することになっているが、プリント・

授業動画は、水野先生が科目チーフである「現代文B」を作成することとなった。さらに、水野先生の授業動画を、4・5・6・7・8組以外の「現代文B」を履修するクラスの生徒も視聴することとし、授業内容と評価の一貫性を図ることにした。

指導内容の共有化と、授業内容と評価の一貫性はこのことにより担保できたが、Classroomを使った情報・指導内容の共有化という点では課題が残った。というのも、各クラスの「Classroom」に、国語の学習に必要な事柄の連絡を行う担当は、水野先生が1・4・5・6組、別の国語科の教員が2・3・7・8組の担当とし、各クラスの「Classroom」に招待される形をとっていた。当初、各クラスの「Classroom」に招待された教員のみが配信できる仕組みだと気がつかなかったため、授業動画や課題の配信にも手間取ることになったという。

「結局、私の授業も、2・3・7・8組については別の国語科の教員が各Classroomに配信するという手間が生じることになりました。遅まきながら各クラスの担当者を分けないうかが、各教員が作成した授業動画を全学級に一度にアップできると気づいたのです」(水野先生)

なお、臨時休業後は、平常時の各クラスの担当者がそれぞれ授業を行っている。

### ◇ クラウドサービスの質問や ◇ 回答機能を活用し ◇ 相談したり、教え合ったりして ◇ 課題を解決 ◇ 他の教員の授業を見る機会にも

在宅教育にともない、これまでICTをあまり活用してこなかった教員にも、急遽、動画の作成などが求められることになった。水野先生は「若手の教員はすぐに授業動画を作



成し、遠隔授業にも抵抗感なく移行していましたが、私を含め年配の教員にとっては、技術面でも授業の実施面でもとまどうことが多くありました」と、当時の状況を話す。

しかし、在宅教育決定の4月13日から、教員の在宅勤務が開始されるまで2週間程度時間があつたため、ICTが苦手な教員は、動画の作成法やアップの方法などを、若手を中心とする得意な教員に、対面で教えてもらう機会を持てたという。

「対面でなくても、在宅勤務開始後は、わからないことを、教員がメンバーの各教科のClassroomで質問すれば、誰かが答えてくれました。ICTを使っても、情報のやりとりは比較的スムーズだったと思います。また、出勤の予定表を見て、ICTが得意な先生の出勤日に相談したり、個人的にメールで質問したりすることもありました。ICT以外についても同様に連絡を取り合い、出勤しなければできない仕事を出勤者に依頼するなど、協力して仕事を進めることができました」（水野先生）

なお、水野先生は、「私はICTが得意なわけではありません」とのことです。先生ご自身は、PowerPointで、アニメーション機能を使ったスライドを作成し、音声吹き込んだ動画をYouTubeにアップしている。授業動画は10分程度を目安として、今までの授業を踏まえて、どこを動画部分にするのか、改めて考えた上で、スライドを作成し授業動画を作ったという。

ところで、在宅教育中は、生徒に対して授業動画を公開することに伴い、教員間でも、他の教員の授業動画を相互に見る良い機会にもなったという。特にICTの活用については、水野先生も「若い先生は、スマートフォンで自分の授業を撮影して配信したり、多様な素材を貼り込んだス

ライドを作成したり、デザインのセンスも良かったりと、質の高いものを作成し、感心しました。現在は、通常登校に戻っていますので、授業動画の配信などは行っていませんが、次に作成する時には、私もスキルアップしたいと思います」と話す。

### 対面でもオンラインでも 日頃の人間関係が 情報共有の基本

在宅教育の学習面での課題としては、水野先生は、やはり対面授業にしかない良さを指摘する。「通常は、教室の雰囲気や生徒の顔を見ながら内容を理解しているかどうか判断したり、もう1度説明したり、驚かせて眠気を覚ますといったことができず、遠隔授業だとそれができないのがもどかしかったですね。また、教室で生徒を当てて答えや考えを言わせると、想定外の答えが返ってくることもあり、そこが面白いのですが、在宅教育ではそうしたやりとりは難しいですね」

さらに、今回はスマートフォンで視聴せざるを得なかった生徒も多かったそうで、「せめてiPad miniくらいの画面の大きさがあれば、生徒も見やすかったと思います。生徒は、読みづらいところは、動画を一時停止し文字を大きくするなど工夫して

いたようですが、黒板の文字などは見づらかった場合もあるでしょう」（水野先生）と語り、ICTを使った指導上の課題も挙げた。今後の公立高校における生徒のICT環境の整備も待たれるところである。

生徒の学習状況については、一斉登校開始後に話を聞くと、動画はきちんと視聴していた様子がうかがえたという。「提出されたプリントの出来も、在宅教育中の学習内容についてのテストの出来も良かったので、安心しました。休校が続く中で生徒も不安だったと思いますし、焦りもあって、真面目に学習に取り組めたのではないのでしょうか」（水野先生）

6月15日からは一斉登校が開始されたが、Classroomの運用はそのまま続け、アンケートや大雨警報発令による自宅待機時の連絡など、クラスや教科の連絡に使っているという。

最後に水野先生に校内の情報共有のポイントをうかがうと、「今回改めて感じたのは、顔を合わせないからこそ、日頃の人間関係が大切だということです。本校では日頃から、職員同士のコミュニケーションがとれていたため、若手・ベテランや教科を問わず、ICTを使って教えたり教えられたりと、スムーズに情報共有をすることができたと思います」と話してくれた。

#### 奈良県立法隆寺国際高等学校

◇所在地：奈良県生駒郡斑鳩町高安2-1-1

◇沿革：2005(平成17)年 奈良県立斑鳩高等学校と片桐高等学校を統合・再編して開校  
2010(平成22)年 県内初の高等学校「ユネスコスクール」に承認される

◇学級編成：各学年 普通科4クラス、歴史文化科1クラス、総合英語科3クラス

◇生徒数：男子433名、女子503名(2020年8月1日現在)

◇特色：3学科を設置し、日本の歴史を深く理解し伝統文化を継承しつつ、国際社会で活躍できる人材の育成をめざす。また、ユネスコスクールの承認を受け、国際理解教育、ESD(開発教育)の推進校として、さまざまな取り組みを行っている。留学生の受け入れや派遣等、国際交流も盛ん。

◇卒業生の進路：2020年3月1日現在 卒業生307名  
・4年制大学145名、短期大学33名、専門学校108名、就職9名など